

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成21年2月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4710610538
法人名	医療法人 祐真会
事業所名	グループホーム更竹
所在地	〒906-0011 沖縄県宮古島市平良字東仲宗根1898-7 (電話) 0980-73-0800
評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成21年2月18日

## 【情報提供票より】(H21年1月8日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8 人	常勤	6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 8 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	5 階建ての	3 階 部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		1200 円	

### (4) 利用者の概要(1月 8日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	1 名	要介護2	3 名			
要介護3	5 名	要介護4	名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	82 歳	最低	67 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮古島リハビリ温泉病院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは島の中心付近に立地し、周辺には点在した集落があり、畑や緑が広く見渡せる自然豊かな場所にある。母体となる法人病院は複数の介護サービス事業所を併設している。法人が提供する事業展開の中で事業所は多岐に渡り支援を受け、充実した連携の中で安心した介護サービスが行われている。吹き抜けのある中央フロアでは利用者がテレビを見たり、スタッフと室内歩行をしたり、日替わりレクリエーションで和気あいあいと過ごしている。ともしれば医療色になりがちな敷地内で管理者を中心に職員は手作りのレク材料を考案したり、シャワー室の椅子を手作り提供したり、ホーム独自のカラーが出せる様に頑張っている。今年からは地域との交流が計画されており、当ホームが近隣高齢者と親睦和合し、地域に開かれたホームになる取り組みが大いに期待される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>エレベーター付近のホーム玄関先に観葉植物を並べる等、居心地の良い空間作りの工夫に取り組んでいる。出来る事から少しずつ改善を行っているが、大方の改善への取り組みが未だなされていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票を全員にコピー配布し各自で取り組んだ後、管理者がまとめた。これまでのサービスを振り返り、言葉使いや接し方等に気付きがあり確認しあう事が出来た。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>今月、第1回運営推進会議が開催され、市担当者、自治会長、家族代表、職員、管理者が出席した。討議内容は当ホームの紹介、自治会へ加入し、地域交流を推進していくよう活発な話し合いがなされた。今後、2ヶ月に一回の予定で開催される。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情窓口については重要事項説明書に明記されており、入所の際には家族に説明している。全体的に各家庭の諸事情で、家族来訪が殆ど見られない。従って家族からの意見や苦情、意見箱の利用は殆ど無いが、2~3家族の来訪者は直接、職員や管理者に意見や苦情を伝え、改善策を見出している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>これまでは地域との親睦が無かったが、運営推進会議設置をきっかけに、地域との連携で親睦が密接な関係になる様、継続的な計画が臨まれる。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は昨年、管理者と職員間で意見を出し合い作り上げた。ホール中央の壁に大きな文字にして掲げている。理念の一つである「えがお」という文字は、入居者と共通共有した思いが笑顔と笑顔で展開されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員間で共有しており、利用者の日々の暮らしに理念を活かした取り組みを行っている。月一回、ミーティングを持ち理念がサービスに反映されているか、話し合いや確認が持たれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人内での行事には活発に参加している。運動会、デイサービス、合同レクリエーション等、法人内での交流が主体となっている。これまでは地域との付き合いが殆ど無かったが、今年は自治会の年間行事計画に参入する予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員で行った。前回の外部評価の結果を話し合い改善に向けて努力している。玄関周りの殺風景を植木鉢を並べて改善する等、前回の改善項目を出来ることから手がけている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今月、第1回運営推進会議を開催出来た。参加者は市担当者、自治会長、家族代表、管理者が揃い、話し合いが持たれた。運営推進会議がホームの活性化に繋がる事を期待する。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村へ行き来する機会が殆ど無い。これからは職員が運営推進会議の委員に加わった事で、これまで疎遠だった行政機関へも足を運び、制度の運用や解釈に付いての情報を得るよう努力して欲しい。管理者は今後困難な事例に対しても相談や意見交換の場を設けていきたいとの意向がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時にパネルにした利用者の写真を見て貰っている。利用者の暮らしぶりや健康状態、また職員の異動などは家族の来訪時に報告している。来訪の少ない家族へは利用料金の請求の際に「ホーム便り」を入れて郵送している。	○	訪問する家族の頻度が少ない。家族がホームに任せきりにならない様に入居者個々の誕生日会を設け家族の参加を呼びかけたり可能であれば屋外での交流など、家族と利用者の関係を近づける働きかけも臨まれる。また家族が湯茶を飲める様な寛ぎの場などを確保して、気軽に訪問出来る工夫を考えて欲しい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、意見窓口は重要事項説明書に明示され、入所時に家族へ説明している。ホーム入り口にも意見箱を設置しているが利用されていない。これからはホーム側から相談を持ちかけたりして双方向での意見が出し合える関係作りが臨まれる。家族会は未だ結成されていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同法人施設内での職員の突然の異動や離職、やむを得ない引継ぎ等は多くあるが、利用者は殆ど覚える事が無いので、現在の所、利用者へのダメージは見られない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染症の基礎知識習得研修は運営規定に則り、法人内で行われているが、日常的な研修の機会は殆ど無い。	○	職員それぞれの段階に応じた研修参加で、職員の質の確保、向上に向けた育成が望ましい。他事業所での学習会や研修会へも順番に参加し、報告発表の機会を設けるなどして、意見やアドバイスを受けながら運営面での工夫が求められる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡協議会に加盟しているが、ここ1年は参加していない。管理者や職員は島内の同業者との交流が少なく、情報交換の場が持たれていない。	○	利用者の日々を充実させ、サービスの質を上げる為には他事業所との交流を図って情報交換する事が大切である。島内グループホーム同士の交換研修や合同行事など企画してみてはどうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は法人病院からの紹介で、サービス利用前に家族と共に何度か見学している。馴染みながらの入居へと違和感なく移行出来る配慮がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活経験から来るアドバイスを傾聴している。子育てに関する事や、種まきや収穫までの畑仕事、虫の名前、ムービー作りなど職員と利用者が一緒になって昔の生活の知恵や遊びを再現して共に支えあいながら過ごしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	殆どの利用者が自分の思いや暮らし方の希望を言わないので、日々の関りの中で声をかけ、把握に努めている。足の弱い利用者にはホール内を付き添い散歩させたり、食事前後の準備や片付け等を、出来る範囲で一緒に行い喜怒哀楽を共にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護困難な利用者の場合、関係者と話し合い隣接した法人病院へ入院手続きを取る事が多い。変化がある場合や家族からの意向に関しては、電話や来訪時の話し合い程度で、記録にまとめていない。	○	長い期間の入居では変化に対する気付きが弱くなりがちだが、日々の様子や、特徴、介護などわずかな変化も見逃さず記録して介護計画の反映に繋がるよう努力して欲しい。また作成時には家族の参加を促したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の記録はされているが、介護計画は年1回の介護認定更新時のみである。定期的な介護計画の見直しや、変化があった時のモニタリングの記録は見当たらない。現状に即した利用者本位の介護計画作成の早期取り組みを期待したい。	○	モニタリングは3ヶ月に1回義務化されているので、確実に実践し、また家族からの閲覧要請があれば即応出来る様に資料整備も行って欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人施設でのレクリエーション、デイサービスとの交流、病院売店での買い物、月1回のドライブや外食、ショッピングなど利用者の状況に合わせて多機能的な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人病院がかかりつけ医になっており、転倒、低血糖、不穏で暴れたりする利用者に即対応している。協力医療機関以外での受診では家族と連携を取りながら希望する医療機関を職員と一緒に受診している。通院同行する際、利用者の情報提供は同行する介護者が口頭で伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、同敷地内の法人病院に入院させている。家族へは早い段階で話し合われ了解を得ている。	○	利用者の人生をまるごと考える事は、地域での最終ステージを成就することである。当ホームにおいて終末期ケアが想定外であっても職員はホームの方針や対応、命の倫理、家族の心のケアを学習会で深め、かかりつけ医との連携を共有することが望ましい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。失敗や粗相があっても本人を傷つけない様にさりげなくトイレに誘導したり、着替えさせたりしている。個人情報保持の職員間での理解に努め、秘密保持など安易にならない様、プライバシーは厳重に守っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なホームの日課はあるが、一人ひとりのペースや体調を見ながら個別性のある支援をしている。食事のペースが遅い人、買い物や散歩など、利用者が望むことを積極的に取り入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	病院の栄養士が法人全体の献立を立て、決められた食材がホームの利用者の人数分配られ、調理は職員が行っている。法人の就業規則により職員は弁当を持参して利用者と一緒に食べている。週に1回は希望メニュー選びが出来る配慮もある。食事準備や片付けは利用者と共にやっている。	○	食事は食欲や栄養を満たすだけでなく、喜びや楽しみをもたらし、調理は女性にとって自分を発揮出来る輝きの場でもある。利用者全員が女性でもあり、食事への関心は高いと思われる。食事に関する一連の作業を職員が時には見守り支えながら、利用者の力が発揮できる環境づくりを前向きに検討されてはどうか。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は採光が充分に取られて明るい。浴室には風呂の設置は無くシャワーが取り付けられている。有料の温泉が法人病院内と敷地の向かいにあるが殆どの利用者が利用していない。シャワー浴は毎日行い原則午前中と決まっているが、一人ひとりの希望に合わせて支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、片付け(食器拭き、テーブル拭き)等お願いしてやって貰い、感謝の言葉を伝えるようにしている。室内ボーリング、ゲートボール等を楽しんでいる。楽しみ事の道具を揃えていきたい。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回のドライブ、病院内売店での買い物、天気の良い日には日光浴を兼ねた敷地内での散歩など、その日の希望に添って支援している。利用者は法人の地域から遠方の方が多く、近隣に馴染みの場所がないので、戸外への外出希望は殆どない。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム入り口はエレベーター昇降口になっており、間仕切りの無い開放的なホールは利用者の行動が分かりやすい空間になっている。トイレ、浴室はカーテンで仕切られており、居室のドアにも鍵は取り付けられていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で法人全体の防火訓練を年2回行っている。今年度は消火器の使い方、担架での運び方、非難誘導の仕方を実践訓練した。ホームは耐火建築がされており、煙探知でホール内にシャッターが降りる仕組みになっている。C棟全フロアが火災報知機とスプリンクラーが未設置となっている。	○	平成21年4月の消防法改正で、自動火災報知設備、火災通報装置は全ての施設が対象、スプリンクラーも述べ面積が275平米以上が対象となるなど、防火対策が強化される。当ホームの延床面積364.54平米あり、早期設置が臨まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人は管理栄養士が栄養バランス、分量カロリーに配慮した食材を病院、各介護事業所に分配するシステムを取っている。職員は受け取った食材をホーム内で調理されている。一日のチェック表に利用者全員の記録はあるが、一人ひとりの記録として栄養摂取量や水分量、体重、バイタルの整理がされておらず、経過を追って個人の健康把握が掴めず、分かりづらい。	○	身体に関連する記録は急を要する場合もあるので、一目瞭然に健康状態が把握できる記録を様式化してもらいたい。他グループホームの記録様式を参考にしたり、Webで紹介されている様式など情報収集をして当ホームにあった記録を考案してほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の床面積はかなり広い。板の間や畳の間は無く、フロアや居室には土足で出入りされている。利用者は、テレビを中心にコの字に配置されたソファで、1日の大半を座ったまま過ごしている。家具の配置、飾り物は一緒に考えて本人の居心地の良い空間作りをしている。	○	広い中央フロアを有効活用して、和式の部屋を設えてみたらどうか。高齢者の住まい、生活歴は和式様式である。昔馴染みの畳の部屋が恋しいし、足を伸ばして座りたい。また座る事で足の浮腫も解消され、隣に座る人とさり気ない触れ合いも生じるので検討される事を臨む。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が疎遠になっている利用者が多く、事業所側から家族に連絡を取って少しずつではあるが、なじみの家具などを持ち込んでいる。		